

街中やお店の入口などで見かける「障がい者マーク」は、障がいのある人に配慮した施設であることや、必要な配慮について表示しているものがあります。「障がい者マーク」を見かけたときは、ご理解とご協力をお願いします。

筆談マーク



各施設や店舗窓口に表示され、「筆談でコミュニケーションができる人がいる」などを示すことができるマークです。また、聴覚障がい者自身がコミュニケーションの配慮を求めるときに掲示します。

ヘルプマーク



義足や人工関節を使用している方、内部障がいや難病の方、または妊娠初期など、外見からわからなくても援助や配慮を必要としている方々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせるマークです。近年普及が進んでおり、街で身に着けている方を見かける機会は増えてきています。

身に着けた方を見つけた場合は、「電車・バスで席をゆずる」「困っているようであれば声をかける」など、配慮しましょう。

※障がい福祉課、保健センター、子育て世代包括支援センターで配布しています。

手話マーク



各施設や店舗窓口に表示され、手話で対応することができることを示しています。また、聴覚障がい者自身がコミュニケーションの配慮を求めるときに掲示します。

耳マーク



聞こえが不自由なことを表す、国内で使用されているマークです。聴覚障がい者自身が身に着け、コミュニケーションの配慮を求めるときに掲示します。また、各施設や店舗窓口に表示され、聴覚障がい者の方への対応が可能であることを示しています。

身に着けた方を見つけた場合は、相手が「聞こえない」ことを理解し、コミュニケーションの取り方について「はっきり口元を見せて話す」「筆談をする」など、配慮しましょう。

オストメイトマーク



人工肛門・人工ぼうこうの人たち（オストメイト）のための設備があることを表しています。オストメイト対応のトイレの入口・案内誘導プレートに表示されています。

ご存じですか？
街で見かける障がい者マーク



問合先

障がい福祉課

(☎76・1127)

障害者のための国際シンボルマーク



障がいを持つ人々が利用できる建物、施設であることを示す世界共通のシンボルマークです。

駐車場やトイレなどでこのマークを見かけた場合は、障がいのある方の利用に配慮しましょう。

※このマークは、全ての障がい者を対象としたものです。

車椅子を利用する障がい者を限定し、使用するものではありません。

ほじょ犬マーク



身体障害者補助犬（盲導犬、聴導犬、介助犬）の同伴を啓発するマークです。補助犬はペットではなく、体の不自由な人の体の一部となって働いています。

お店の入口などでこのマークを見かけたり、補助犬を連れている方を見かけた場合は、配慮しましょう。

盲人のための国際シンボルマーク



視覚障がいを示す世界共通のシンボルマークです。視覚障がい者の安全やバリアフリーに考慮された建物、設備、機器などに付けられており、信号機や音声案内装置、国際点字郵便物、書籍などに使用されています。

このマークを見かけた場合は、視覚障がい者の利用に配慮しましょう。

ハート・プラスマーク



身体内部に障がいがあることを表すマークです。身体内部に障がいのある方は外見からわかりにくいので、さまざまな誤解を受けることがあります。

身に着けた方を見かけた場合は、身体内部に障がいがあることを理解して、「電車・バスで席をゆずる」「近辺での携帯電話の使用を控える」など、配慮しましょう。

障がい者が運転する車に表示されるマーク

マークを付けた車に幅寄せや割り込みを行うことは禁止されており、違反した場合は道路交通法の規定により罰せられます。

運転免許試験場内の売店やカー用品店などで購入できます。

身体障害者標識



肢体不自由^{しない}の障がい者が運転する車に表示するマークです。

聴覚障害者標識



聴覚障がい者が運転する車に表示するマークです。

古木茂代さん

(小牧市難聴・中途失聴者協会会長、自身も中途失聴者)

普段、周囲の配慮が必要であると感じるのは？

聴覚障がいでは外見から判断することが難しいので、日常生活の何気ない場面において、「耳が不自由である」ことが周囲に伝わらずに困ることは多いです。例えば、スーパーで買い物しているときに店員さんに声をかけてもらっても、気づかなかったり何を言っているか分からず回答ができないため、困惑してしまいます。

障がい者マークによって周囲の配慮を感じたことは？

私は普段から「耳マーク」を身に着けています。「耳マーク」に気付いてもらえた方は、マスクを外して□元を見せてくださったり、筆談やジェスチャーを交えながらゆっくりと話をするなど、耳が不自由であることを理解し、十分に配慮してくださいます。大変助かっています。

また、市役所や病院の窓口には「耳マーク」が掲示してあると、「気にかけてもらえる」という安心感を得ることができています。



▲「耳マーク」について話す古木さん

市民の皆さんに意識してほしいこと、伝えたいことは？

「耳マーク」など障がい者マークを知らない市民が多いと実感しています。私が身に着けている「耳マーク」に気づいてもらえないこともあります。障がい者は色々な方法で支援が必要であることを周囲に発信している中で、市民の皆さんには障がい者マークの存在を認識していただき、その障がい者に配慮した対応をお願いしたいです。

また、外見ではなかなか判断できない聴覚障がい等をお持ちの皆さんには、障がい者マークを積極的に身に着け、自分から周囲に発信することが大事だと伝えたいです。周囲に自身の障がいを認識してもらうことで適切な配慮・支援を受けることができると思います。

田中潤さん

(障害福祉サービス事業所サンビレッジ職員)

サンビレッジはどんな施設か？

主に知的障がい者の方が通っています。就労の機会や生産活動、創作活動などの提供により、一人ひとりが望む地域生活を送っていただくことを目指しています。

知的障がい者に必要な配慮は？

周囲との意思疎通が困難な方が多くいますので、より分かりやすく丁寧に話をする、などの配慮をいただきたいです。保護者の方からは、街中のお店などでの行動が周囲の誤解を招き、その時の意思疎通が困難であったと伺ったことがあります。その時に「障がい者マーク」があれば周囲に配慮してもらえたかもしれません。

「障がい者マーク」について利用者が感じていることは？

利用者の方で3、4年前から「ヘルプマーク」を身に着けている方がいます。その方は交通機関などを活用してよく外出するそうですが、「ヘルプマーク」によって周囲の方に助けてほしいと思っているわけではありませんが、社会で生活するうえで周囲



▲障がい者と社会の関係について話す田中さん

に温かく見守ってほしい、という気持ちで身に着けているそうです。市民の皆さんに意識してほしいこと、伝えたいことは？

障がい者の方は周囲との意思疎通が難しい場合が多く、支援が必要であってもなかなか周囲に伝わらず、それにより地域とのつながりが減ってきています。障がい者の方が安心した生活を送るためには周囲の理解、支援が必要です。市民の皆さんには、自身が健康であるからこそ思いやりの心をもって障がい者の方を温かく見守っていただきたいと思います。多くの市民の皆さんに「障がい者マーク」を気にかけてもらい、困った障がい者の方がいたら声をかけるような方が増えれば良いし、「障がい者マーク」がそのきっかけになれば良い、と思います。

互いに尊重し合える共生社会を目指して...

世の中には、外見では判断しにくい障がいや疾患を抱えていて、日常生活に不安や不便を感じている方は少なくありません。

そのような方を街中で見かけたら、「電車内で席をゆずる」「困っているようであれば声をかける」「わかりやすく話をする」など思いやりのある行動をしましょう。

